

「核兵器禁止条約」への署名・批准を求める意見書採択に関する

陳情書

討論要旨 川村つよし議員

陳情の内容は、政府に対し核兵器禁止条約への署名・批准を求める意見書を国会に提出することです。

同趣旨の陳情は、昨年も市議会へと頂き、珍しく多くの会派から討論がなされましたが、今年、核兵器の問題を考えようとしたとき、今年2月に始まったロシアによるウクライナへの侵略について考えを巡らせない人はいないのではないのでしょうか。

ロシアも核不拡散条約で核兵器保有を認められた国ですが、その国が戦争を始めてしまい、ロシアによる核兵器使用を否定できない現実を見ると、抑止力だとか核の傘などという議論がいかにか詭弁の類いであったか明らかとなったのではないのでしょうか。

ウクライナの問題も外交上の失敗があると言われておりますが、周辺国との話し合いをいかに戦争につなげていかないか、つながらないようにするか、そういう戦争の準備ではなく平和を維持していく努力こそが日本やほかの国々にも求められるのではないかと考えております。

今年、2022年6月21日から23日にオーストリアのウィーンで核兵器禁止条約第1回締約国会議が開かれました。日本共産党からは、笠井あきら衆議院議員が参加をしました。

笠井議員による報告によれば、締約国会議で注目されたことの一つは、アメリカと軍事同盟を結んでいるドイツ、ノルウェー、ベルギー、オランダ、オーストリアの5か国もオブザーバーとして参加したこと。特に、ドイツとノルウェーの政府代表からの発言には、満場の拍手で歓迎されたとありました。というのも、その発言の中に、立場の違いはあるが建設的な対話を続けていきたいと、そういう発言だったからです。

唯一の戦争被爆国でありながら、オブザーバー参加もしない日本政府の対応は大変残念なものです。

核兵器を持っていることで戦争の抑止にはならないことが証明されてしまった現在、核兵器禁止条約の批准をためらう理由があるのでしょうか。

尾張旭市議会からも核兵器禁止条約への批准を求める意見書を政府に出したいと思います。

皆さんの賛同をお願いし、賛成討論といたします。